

魅力ある府立高校づくり推進 基本計画

(最終案)

目 次

第1章 基本的な考え方

- 1 計画の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 計画の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 今後の府立高校の在り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

- 1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方
 - (1) 普通科・普通科系専門学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (2) 職業学科及び総合学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (3) 京都府立大学との連携強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (4) 全日制高校の配置等の在り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 定時制・通信制課程の魅力化と配置等の在り方・・・・・・・・・・ 9
- 3 柔軟な教育システムによる魅力化
 - (1) 新しいスタイルの全日制高校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - (2) 特別支援教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 4 学校施設等の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 5 公私協調による高校教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第3章 今後の入学者選抜の在り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

参考資料

- 府立高校の在り方ビジョン(概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 魅力ある府立高校づくり推進基本計画の策定経過・・・・・・・・・・ 18
- 府内公立・国立・私立高校の設置学科等一覧・・・・・・・・・・ 20
- 府内高校の所在地図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 府立高校における職業教育を主とする専門学科・総合学科設置状況等・・ 26
- 府内公立中学校3年生の増減率の将来推計(令和4年度基準)・・・・・・・・ 27
- 府内公立中学校3年生数の推移(昭和28年～令和4年)・・・・・・・・ 28
- 府内公立中学校卒業者の進路状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 府立高校における課程別生徒数の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
- 府立高校の第1学年学級数(学校規模)の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- 公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計(地域別)・・・・・・・・ 32

第1章 基本的な考え方

1 計画の趣旨

《計画策定の背景》

本府では、平成23年度以降、「京都府教育振興プラン」（平成23年1月策定）に基づき、長期的な展望に立って教育施策を総合的に推進し、府立高校の教育改革に関わる取組を計画的に実施してきた。

第1期の「京都府教育振興プラン」の策定以降、少子化をはじめとする社会情勢の変化や新型コロナウイルス感染症の影響など、子どもたちを取り巻く教育環境が急激に変化する中で、令和3年1月には、中央教育審議会答申において、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた方針が示された。

こうした教育改革の動向を受け、本府では令和3年度から令和12年度までの京都府の教育の目指すべき方向等を示した「第2期京都府教育振興プラン」を策定した。また、同プランに掲げる基本理念や施策推進の視点のもと、令和4年度から令和13年度までの府立高校における基本的方向性や目指す将来像を示した「府立高校の在り方ビジョン」（16・17頁参照）を策定した。

その中では、府立高校の果たすべき役割など基本的な考え方を明確にした上で、「魅力ある府立高校づくり」に向けた教育内容の充実と、それに向けた教育制度等の改革に関する目指す方向性を掲げている。

《計画の策定》

本計画は、「府立高校の在り方ビジョン」に掲げる内容のうち、今後府教育委員会が取り組む教育制度等に関する改革（第2部Ⅲ）について、基本的な方針を示すものである。

本計画の検討にあたっては、令和4年11月に外部有識者による「魅力ある府立高校づくり懇話会」（以下、「懇話会」という。）を設置し、次の項目について多岐にわたる御意見をいただいた（18頁参照）。

- ・多様な生徒のニーズに対応する各課程における役割や望ましい教育環境について
- ・全日制課程における学科の役割や望ましい配置について
- ・地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方について

【懇話会での主な意見の視点】

- ・南部地域と北部地域など地域の実情を踏まえつつ、幅広い生徒の様々なニーズに応えるとともに、果たすべき社会的役割に応じた魅力ある学校づくりを推進すること
- ・教育の質を確保し、活力ある学校づくりのために一定の学校規模が必要であること
- ・多くの生徒が入学する全日制普通科では、一層の特色化、魅力化を図り、中学生等に向けて明確に発信すること

2 計画期間

計画期間は、本計画の策定後から「府立高校の在り方ビジョン」と合わせて令和13年度までとする。

なお、「府立高校の在り方ビジョン」の改定等により見直しを行うこととする。

3 計画の進め方

地域別等による実施計画を段階的に策定し、具体的な改革内容を明確にした上で、取り組むこととする。

なお、府内各地域において、木府地域振興計画や各自治体の様々な取組、まちづくりとの関係性などを踏まえ、必要に応じて自治体など関係機関と協議、調整を図るものとする。

第2章 今後の府立高校の在り方

高校教育においては、教育活動全般にわたり、生徒が集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて資質能力を育むために、一定規模の生徒集団による教育環境を整備することが重要である。一方で、地域の実情や在籍する生徒の実態に即した指導などを行うにあたっては、小規模校や小集団による学びの形態が望ましい場合もある。

また、高校教育段階においては、義務教育段階より一層、実社会との接続を見据え、多様な他者と関わり対話を通じて学びあうことで多くの経験を重ね、多様な考えや価値観に触れることを通じ、豊かな人間性や社会に参画し貢献する意識等を育むことが必要である。

府立高校生を対象としたアンケート調査結果（以下、「アンケート結果」という。）からは、多くの生徒が学習指導・進路指導、学校行事や部活動、友人等との人間関係の構築に魅力を感じていることがわかる。これら各校の特色である教育活動を一層魅力あるものに充実させていく必要がある。

今後の府立高校の在り方として、次の視点から、学校や課程・学科の配置見直しなどの高校教育改革を推進する。

- ・それぞれの地域で、各校の使命や特色を明確にし、生徒の個性や能力、進路希望など幅広いニーズに応え、将来のキャリア実現につなげる選択肢を確保していく。
- ・高校教育としての質の確保・向上のため、地域の実情に応じた魅力と活力ある教育環境を整備する。

1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方

(1) 普通科・普通科系専門学科

本府では、中学生の普通科志向を背景に、全国に比べて普通科及び普通科系のその他専門教育を施す学科（以下、「普通科系専門学科^{※1}」という。）の生徒数の割合が高く、職業学科及び総合学科の割合が低いといった特徴的な状況にある。

普通科においては、昭和60年度の高校教育制度改善により、類・類型を設置し、普通科の中で特色の細分化を図ったが、生徒のニーズの変化等を踏まえ、地域ごとに類・類型制度を発展的に解消してきた。平成26年度以降、府内全域で普通科として一本化した生徒募集を行い、入学後にコースを選択できる制度としている。

【懇話会での関連意見】

- ・ 圧倒的に多くの生徒が普通科に入学している実態から、授業や教育内容などの教育活動の特色によって学校選択ができるように、普通科の特色化は進めていくべきである。
- ・ 中学生段階では、進学する目的や将来の進路選択が決まらないまま進学する生徒も多い。
- ・ 普通科には、学校ごとに様々なコースがあり、また普通科系専門学科も混在し、中学生等にとっては違いが分かりづらいため、高校側から教育内容を明確に見せていくべきである。
- ・ 普通科のコース設定等は、高校卒業後の進学先での学びや、大学卒業後の仕事へのレディネス^{※2}につながる具体的な教育内容を明確にする必要がある。
- ・ 本質的な普通科の特色化を進めるには、キャリア教育^{※3}を軸とした視点が必要である。

【基本方針】

- 社会が大きく変化する中で、生徒の多様なニーズや希望に対応した選択肢を提供できるよう、それぞれの高校に応じた特色ある教育活動を展開するとともに、中学生や保護者が進路選択しやすいよう、各校の特色や魅力をわかりやすく情報発信する。

(特色や魅力ある教育活動の例)

- ・ 社会を牽引するリーダー人材を育成する高度な学び
 - ・ 大学や研究機関等と連携・協働した学び
 - ・ 基礎・基本の学び直し
 - ・ 質の高いスポーツや文化・芸術活動 など
- 普通科系専門学科は、先進的な探究活動等に取り組むなど、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる。
 - 各通学圏で既設の普通科及び普通科系専門学科を見直し、特色あるコース設定や新しい普通科^{※4}の設置など、普通教育の魅力化を推進する。

※1 普通科系専門学科

専門教育を主とする学科（専門学科）のうち、職業学科（農業・工業等）以外の普通科系の学科。

※2 レディネス

準備性（学習に対する心身の準備状態）。

※3 キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を施す教育。

※4 新しい普通科

令和4年度施行の法令改正により普通教育を主とする学科として、次の学科が設置可能となった。

- ・学際領域に関する学科 学際的・複合的な学びに重点的に取り組み、大学等との連携協力体制を整備。
- ・地域社会に関する学科 地域社会が有する課題や魅力に注目した実践的な学びに重点的に取り組み、地域の行政機関等との連携協力体制を整備。
- ・その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科 スクール・ミッションに基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組み、関係機関との連携協力体制を整備。

(2) 職業学科及び総合学科

職業教育を主とする学科（以下、「職業学科」という。）については、昭和60年度の高校教育制度改善以降、産業社会の進展に即応した魅力ある職業教育の推進に向け、専門的な教育内容や施設・設備の充実、職業学科単独校の設置、学科の適正配置などに努めてきた。

現在設置している各学科は、地域産業とのつながりが深く、市町村や企業、高等教育機関等と連携し、その分野を牽引する役割も果たしている。

また、総合学科については、全日制課程で2校、定時制課程で1校設置しており、幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択して学ぶことにより、一人一人の個性を生かした主体的な学習や、将来の職業選択も視野に入れた進路への自覚を深めることができる学習を推進している。

【懇話会での関連意見】

- ・中学生段階では将来の進路を描ききれない生徒が多く、職業学科を選択することは難しい側面もある。
- ・中学生や保護者等には、職業学科・総合学科の教育内容、卒業後の進路状況や魅力が十分に伝わっていない。
- ・大学や産業界の研究とも連携した価値を創造する学びの視点で、実社会で求められる実践的な能力を育てていく視点が必要である。
- ・地域産業との連携を通して、将来を見据えたキャリア教育を行うことで、生徒自身がキャリアデザインを進め、卒業後の具体的な進学や就職につなげていくことが重要である。

【基本方針】

- 職業学科及び総合学科については、地域バランスや地域の魅力を考慮して学校、学科を配置する。
- 府の産業政策や、府産業教育審議会における議論を踏まえ、大学や地域の産業界との連携など産業教育の一層の充実及び魅力化を推進する。

- 「府立高校産業教育デジタル化事業費^{※5}」により充実した設備を最大限活用し、実社会に通じる実践的な産業教育を推進する。

※5 府立高校産業教育デジタル化事業費
地域産業を牽引する人材を育成するため、最先端のデジタル化に対応した産業教育設備を導入する事業費（令和3年度実施）。

(3) 京都府立大学との連携強化

京都府立大学においては、『「新生・京都府立大学」改革プラン』に基づいて、学部学科を再編する改革が令和6年度を目途に進められている。公立大学に求められる地域貢献として、地域に対して専門教育の門戸を開き、高校との相互連携を進め、「大学の知」を生かした教育プログラムの提供機会の拡大を図っていくという方針が掲げられている。

現在、京都府立大学とは連携協定を結び、農林業系専門分野における高大連携プログラム^{※6}に取り組んでいるが、今後は、新設される学部の教育内容に応じて食分野での連携も進めるなど、高大連携による課題探究型の高度で質の高い学びと体験的・実践的な学びによる実学との融合を図り、実社会で活躍する人材を育成していく必要がある。

【基本方針】

- 農林業系専門分野（「農」「林」「食」）の教育内容を充実させるため、中核校を府立大学附属高校^{※7}とし、大学との相互連携を強化した上で、他校へその成果を波及させる。

※6 高大連携プログラム
森林環境・地域創生をテーマとした相互交流、農業分野での実習施設の相互訪問や研究活動等を目的として、府立大学と府立北桑田高校、農芸高校で実施している。

※7 附属高校
府立大学との高度な相互連携を推進するため、既設の府立高校を附属高校とし、これまでどおり府教育委員会が管理、運営する。

(4) 全日制高校の配置等の在り方

府内公立中学校3年生数は、直近では昭和62年度の40,698人をピークに減少し続け令和4年度には19,144人と約半減している。一方で、府立高校の学校数はほぼ変わらない状況にある。

府立高校全日制課程の第1学年募集定員による学級数は、平成25年度選抜時には6学級から9学級の高校が中心であったが、令和4年度選抜時には5学級から7学級の高校が中心となるなど中学校3年生数の減少に伴い府立高校全体で小規模化が進行している。

府内公立中学校卒業生数は、府内全域で今後も減少する見通しで、特に北部地域（口丹、中丹、丹後地域）において顕著な減少となる見込である。

<南部地域（京都市・乙訓、山城地域）の状況>

- ・通学利便性が比較的高く、公立高校の他に私立高校が多数存在しており、通学可能な範囲に多様な選択肢がある。
- ・多くの府立高校において、1学年6学級から8学級（学校全体で18学級から24学級）規模である。
- ・公立中学校3年生数の将来推移は、比較的緩やかに減少し続ける見通しである。

<北部地域（口丹、中丹、丹後地域）の状況>

- ・府立高校は広い地域に点在し、公共交通機関の運行状況によって通学に利用できる交通手段も限られるため、通学可能な範囲での選択肢は南部地域よりも限定的である。
- ・多くの府立高校において、1学年5学級以下（学校全体で15学級以下）の規模である。
- ・公立中学校3年生数の将来推移は、地域によって減少傾向に違いがあるが、今後10年間では地域全体で顕著に減少する見通しである。

学校の小規模化が進行することに伴って、一般的な全日制高校では教育活動に対する次のような課題が生じることとなる。

- ・標準・発展など生徒の進路希望や学力に対応したクラス編制や授業での講座展開が難しくなる。
- ・習熟度別指導など学級の枠を超えた多様な指導形態をとることが難しくなる。
- ・グループで取り組む探究活動等の協働的な学習において、取り上げる課題や授業展開に制約が生じる。
- ・様々な生徒が集まり、個性の違いや多様性を認め合い、人を思いやり尊重するなど人間関係の形成を行う機会が持ちにくくなる。
- ・クラスや学年の枠を超えて取り組む文化祭や体育祭などの学校行事、生徒会活動や部活動の内容や種類が限定的になり、切磋琢磨する教育活動が困難となる。

一方で、アンケート結果では、在籍する府立高校の魅力及び高校選択時に期待していたことについて、学習指導・進路指導の充実、学校行事（文化祭、体育祭、研修旅行等）や部活動、友人等との人間関係の構築であると生徒の多くが回答している。

上記の課題を解消し、生徒の期待に応えるためには、地域の実情を考慮しつつ、一定の学校規模を維持する必要がある。

【懇話会での関連意見】

- ・中学生は高校に対して、学習内容の専門性や学校規模等の要素でのグレードアップを求めており、大きな集団による学校行事や部活動等で切磋琢磨できることが重要である。

- ・ 高校が果たすべき役割として、生徒をどう実社会と接続させるか、人間性や社会性、キャリアデザインをどう身につけさせるかといった観点が重要である。高校教育としての質を確保するためにも一定規模の集団が必要である。
- ・ 望ましい学校規模は、それぞれの地域特性を考慮しながら議論していく必要がある。
- ・ 適正な学校規模の在り方は、学校の機能や役割ごとに考えることも重要である。
- ・ 通学時間は大きな要素であり、通える範囲の地域において生徒のニーズに合った選択肢があることが重要である。
- ・ 高校の存在意義や役割等は、地域政策ともつなげて検討することが重要である。

【基本方針】

- 南部地域と北部地域の実情の違いを考慮しながら、学習指導と部活動や学校行事などの教育活動のバランスの良い高校教育が提供できるよう、学校の配置及び学校規模を見直す。
 - ・ 南部地域（京都市・乙訓、山城地域）
 - 1 学年 6 学級から 8 学級程度（学校全体で 18 学級から 24 学級）を望ましい学校規模とし、地域内での通学利便性や学科を含む高校の設置状況、公立中学校 3 年生数の将来推移などを総合的に判断して、各地域内における学校の配置及び各校の使命や特色を見直す。ただし、学校規模の一律的・機械的な平準化は行わない。
 - ・ 北部地域（口丹、中丹、丹後地域）
 - 地元地域からの入学状況等も含めて総合的に判断し、更なる小規模化により生じる教育活動の課題を解消するために、ICTの利活用を進め、各地域内における学校の配置及び各校の使命や特色を見直す。
- 学校配置の見直しにあたっては、政府統計による高校生の平均通学時間**を目安として考慮する。ただし、地理的条件等を踏まえ総合的に判断する。
- 設置する課程・学科等において果たすべき使命や特色をスクール・ミッション**⁹ 及びスクール・ポリシー**¹⁰ において明確化する。これらは実施計画の策定などに合わせて改訂することがある。
 - なお、定時制課程、通信制課程についても同様に取り扱う。
- それぞれの府立高校の日常の活動を含めた魅力を SNS・マスメディア等を活用して広く発信し、小・中学校におけるキャリア教育の充実につなげる。
- 探究活動や地域の企業と連携したキャリア教育の企画・運営、地域人材や教育資源との連絡・調整など、府立高校と地域社会との連携・協働を担うコーディネーター**¹¹ 体制の整備を進める。

- **特色ある府立高校に開放型地域クラブ^{※12}を新たに設置し、中学校部活動の地域移行に
おいての活動拠点にするなど地域のスポーツ・文化芸術活動の推進につなげる。**

- ※8 政府統計による高校生の平均通学時間
総務省統計局「令和3年社会生活基本調査」による平日1日あたり往復時間の平均は、全国平均 87分、京都府平均 98分。
- ※9 スクール・ミッション
各学校の存在意義や各学校に期待されている社会的役割、目指すべき学校像で、設置者が定めるもの。
- ※10 スクール・ポリシー
各高等学校における高校教育の入口から出口までの教育活動に係る三つの方針（育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針）で、各高等学校が定めるもの。
- ※11 コーディネーター
学校が関係機関等との連携・協働体制を整備するため、その連絡・調整を担う外部人材。
- ※12 開放型地域クラブ
府立高校を拠点に学校が持つスポーツ・文化芸術活動資源を活かし、地域の子どもたちや成人が一体となって活動できる開放型地域クラブを創設することにより、スポーツ・文化芸術活動を通じた地域コミュニティづくりに貢献するもの。

2 定時制・通信制課程の魅力化と配置等の在り方

定時制・通信制課程においては、社会情勢や時代の変化とともに、本来の設置趣旨である勤労青年に対する高校教育の機会を保障する場から、小・中学校等で不登校経験がある生徒や特別な支援を要する生徒、外国にルーツを持つ生徒など、多様な生徒が学ぶ場へと大きく変化している。

アンケート結果からも、定時制課程に在籍する生徒の多くは、少人数での学習指導等により全日制課程よりもゆったり学べることに魅力を感じており、京都フレックス学園構想^{※13}による昼間定時制単独高校には、旧来の昼間定時制高校に比べて多くの生徒が進学を希望している。

通信制課程では、テレビ放送やインターネット等を利用するなど様々なメディアを利用した指導や自己のペースで学ぶことができるといった特長がある。

近年、これらの通信教育の特長とともに、多様な生徒の学習ニーズ、生活スタイルや価値観の多様化等を背景に、全国的に通信制高校への入学者が増加している。

【懇話会での関連意見】

- ・ 夜間定時制課程では在籍生徒数が減少し、集団での教育活動や部活動が十分に成立しない状況が課題になっている。高校卒業後の社会性を身につけるためには、丁寧な指導とともに一定規模の集団による教育環境が必要である。

- ・ 全ての課程において、生徒が学び続けることができる柔軟なシステムやサポートが必要であり、京都フレックス学園構想の理念や成果を展開していくことが重要である。
- ・ 通信制課程は学習の自由度が高く選択はしやすいが、自学自習の力不足で途中で辞めてしまう生徒もいる。公立の通信制課程の在り方は検討すべきである。
- ・ 課程間での併修^{※14}や、通信制課程において、通信教育で学ぶだけでなく、通学を組み合わせるなどの新たな手法も考えられる。

【基本方針】

- 京都フレックス学園構想による成果・課題を踏まえ、各地域における生徒の状況やニーズに応じて、定時制課程の配置を見直す。

その際、現在の定時制課程が果たしている役割、全日制課程との関連性等も考慮して検討する。

- 通信制課程では、通学による対面指導とICTを活用したオンライン指導とによるハイブリッド型の学習、転・編入制度の弾力化、通信制課程での履修科目を全日制課程・定時制課程で単位修得可能とするなど他課程との連携を含めた、新しい教育システムの構築を推進する。

※13 京都フレックス学園構想

多様な生徒の学習ニーズに対応するため、柔軟な教育システムや社会的自立を支援する教育を柱とした構想。

※14 課程間併修

例えば、通信制課程の生徒が、同一高校あるいは異なる高校の定時制課程において一部の単位を修得する、または定時制課程の生徒が、同一高校あるいは異なる高校の通信制課程において一部の単位を修得すること。

3 柔軟な教育システムによる魅力化

(1) 新しいスタイルの全日制高校

全日制課程には大多数の生徒が在籍しており、幅広い生徒の個性や能力、学習ニーズや様々な将来の進路選択等に応じていくことが必要である。

また、義務教育段階で個性や能力が十分に発揮できていなかった生徒など、全日制課程においても在籍する生徒のニーズは多様化している。

高等学校学習指導要領では、卒業までに修得させる単位数^{※15}は74単位以上と規定されている。一方、全日制課程は週当たり30単位時間^{※16}を年間で履修することが標準とされており、全日制課程の修業年数である3年間に換算すると、卒業までに90単位程度履修することとなる。

生徒が学習意欲を高め、主体的に学びに向かうことができるように、卒業までに修得させる単位数を見直すなどの工夫が必要である。また、生徒が自身の個性や特異な才能を伸ばすことができる柔軟な学習スタイルの確立や、キャリア教育の実践など特色ある学校の在り方も重要である。

【懇話会での関連意見】

- ・ 全日制課程では学び直しや難関大学受験を目指す生徒など、様々な生徒の実態や希望進路に対応できる多層的な学習環境が求められる。
- ・ 教科学習以外の様々な教育活動等によって、生徒自身が将来を考えるキャリア教育の充実、学年制など既存の枠にとらわれない自由な履修の在り方も考えられる。
- ・ 基礎的な学力が十分に定着していない生徒が安心して学べる場が必要である。一方で、特別な能力のある生徒を伸ばす視点も必要である。

【基本方針】

○ 単位制による柔軟な教育課程を活かし、生徒の挑戦をサポートする新しいスタイルの全日制高校を設置する。

(想定する教育システムの例)

- ・ 卒業までに修得する科目や単位数を選択可能とする
- ・ 2期制^{※17}により半期のみでの単位修得も可能とする
- ・ 学習時間帯の選択を可能とする
- ・ 異なる課程間での教科・科目等履修システムを構築する
- ・ 通級による指導^{※18}を導入する など

○ 新しいスタイルの全日制高校は、京都フレックス学園構想による昼間定時制単独高校との関係性を踏まえて、地域バランスを考慮した配置を検討する。

※15 卒業までに修得させる単位数

高等学校学習指導要領において、74単位以上（各教科・科目及び総合的な探究の時間を必ず含む）と規定。

※16 全日制課程における週当たりの授業時数

高等学校学習指導要領において、各教科・科目及び総合的な探究の時間に、特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事）を含めた30単位時間を標準と規定。

※17 2期制

半年間の学期ごとに授業が完結し、単位の修得認定を行う仕組み。

※18 通級による指導

大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部、障害に応じた特別の指導を特別な場で受ける指導形態で、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服するため、特別支援学校学習指導要領の自立活動に相当する指導を行う。

(2) 特別支援教育の充実

全国的な特別支援教育に対する理解の浸透を背景として、本府でも特別支援学校はもとより、小・中学校や高校において特別な支援を要する児童生徒が、近年増加傾向にある。

特別な支援を要する児童生徒を取り巻く状況や中学校卒業者のほぼ全員が高校等に進学する現状からも、高校段階における特別支援教育の一層の推進は必要不可欠である。府立高校におけるインクルーシブ教育システム^{※19}の構築に向け、通級による指導の充実や特別な支援を要する生徒と共に学ぶ新たな仕組みづくりが重要である。

【懇話会での関連意見】

- ・ 京都フレックス学園構想による高校では、通級による指導も取り入れた丁寧な指導で、生徒が順調に高校生活を送るなど非常に有効に機能している。
- ・ 特別な支援を必要とするなど、様々な学びのニーズや実態に応じた適切な学びが選択できることが望ましい。
- ・ 特別支援教育の視点は重要であり、教員研修等の取組も必要である。

【基本方針】

- 高校教育段階での特別支援教育を充実させるため、特別支援学校高等部の分校の併設など府立高校でのインクルーシブ教育環境を整備する。また、京都府スーパーサポートセンター^{※20}や各地域の地域支援センター^{※21}との連携を強化する。
- 府立高校での通級による指導は、京都フレックス学園構想による昼間定時制単独高校における実践や成果を検証し、拡充を図る。

※19 インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み。

※20 京都府スーパーサポートセンター

京都府の特別支援教育の拠点として発達障害を含む障害のある子どもへの就学前から高校卒業までの一貫した支援を行うため、子ども・保護者・教員・地域を支援している。

※21 地域支援センター

京都府では、地域の学校（園）等の障害のある子どもへの教育相談等を行うために、地域の特別支援教育のセンター的機能として、特別支援学校に地域支援センターを設置している。

4 学校施設等の整備

学校教育に必要な機能や安全かつ快適な教育環境を確保するため、老朽化が進んでいる施設・設備等は、計画的に整備・更新を行う必要がある。

これまでから、大規模改修やトイレの洋式化など学校施設の計画的な整備を進め、また、喫緊課題の老朽化した空調設備について、普通教室等の空調設備更新を大幅に加速させるなど、安心安全な教育環境づくりに努めてきた。

アンケート結果においても、生徒の多くが施設・設備に対する改善を望んでいる。財源等の課題はあるものの、計画的な整備を進めるとともに、教育のデジタル化による新時代の学び、地域産業を支える職業教育等の充実などといった中長期的なニーズや課題を見据えて、魅力ある学びを支える環境整備が必要である。

【懇話会での関連意見】

- ・ 生徒や保護者は、新しくきれいに整備された学校に対して率直に魅力を感じるので、空調やトイレなどの学校施設・設備を整備することは重要な要素の一つである。

【基本方針】

- 生徒が意欲をもって学びたくなる魅力ある教育環境とするため、新たに「府立高校魅力化推進施設・設備整備基本構想」（仮称）を策定し、学校の使命や特色に応じた施設・設備の充実や、学校、学科の配置見直しに必要な重点的な整備を進める。
- 京都産業を牽引する職業人の育成を担う職業学科設置校では、意欲や目的意識の高い生徒が切磋琢磨できるよう、より充実した教育環境にするため、寮や産業教育設備など特色ある施設等の整備を推進する。
- 校舎の大規模改修など、学校施設の長寿命化対策を進めるとともに、空調設備の整備、トイレの洋式化など、快適な教育環境づくりを計画的に推進する。

5 公私協調による高校教育の充実

本府では、府内の全高校（本校）数に占める私立高校の設置割合が全国で2番目に高いことから、公立高校と私立高校が協調して、本府の高校教育の充実と発展に努めてきた。

近年、府内公立中学校卒業者の進路先については、府内公立高校（全日制課程）進学者が減少傾向であるのに対し、府内私立高校（全日制課程）進学者が増加するなど進路状況に変化がみられる。

その要因の一つとして、私立高校進学者に対する「京都府あんしん修学支援制度^{※22}」の浸透や拡充などによって、私立高校進学時の経済的負担が軽減されたことが考えられる。

中学校卒業生数の減少が今後も続く状況は、京都府、京都市、私立高校の各設置者に共通する課題であり、公私協調による本府公教育の更なる充実に向け、議論していく必要がある。

【懇話会での関連意見】

- ・ 府立高校だけでなく、市立高校や私立高校も含めた設置者全体で、生徒減少等の課題を考えていくべきである。府内の高校全体で検討することで、生徒の将来につなげていくことが重要である。

【基本方針】

- 加速化する少子化への対応をはじめとする公立高校と私立高校設置者間の共通課題について、「京都府公私立高等学校協議会」において、中長期的な生徒受入対策等を協議していく。

※22 京都府あんしん修学支援制度

京都府では、私立高校の授業料に対する支援として、国が実施する「高等学校等就学支援金」の上乗せ制度として実施。

第3章 今後の入学者選抜の在り方

現行の入学者選抜制度は、中学生がより主体的に高校を選択し、充実した高校生活を
実現できることを目指して、平成 26 年度入学者選抜において見直しを行って以降 10 年
が経過したところである。

その中で、生徒や保護者の早く進路先を決定したいという思いを背景に、私立高校の
入学者選抜を経て、公立高校の前期選抜は受検するものの、不合格となった場合には中
期選抜は受検せずに進路を決定するといった状況がある。

また、学科等によって前期選抜・中期選抜の募集割合や志願できる地域が異なり複雑
であるといった指摘がある。

さらに、入学者選抜の実施日程について、前期選抜と中期選抜間の期間が短いことや、
前期選抜から後期選抜までの長期間にわたり入学者選抜を実施する学校では年度末の業
務繁忙期と重なるなど新たな課題も生じている。

【懇話会での関連意見】

- ・ 現在の入学者選抜制度は、何度もチャンスはあるが、一方で生徒や保護者にとって
は分かりにくい制度である。
- ・ 入学者選抜制度において、生徒の多様性を踏まえ、検査項目を選べたり学力検査以
外にウエイトを置いたりするなど、生徒それぞれの特性や特長を活かせる仕組みづく
りも重要である。

【基本方針】

○ 現行の入学者選抜における成果と課題を、京都府教育委員会及び京都市教育委員会が
連携して、関係する公立中学校・高等学校の代表者と検証・整理した上で、よりよい入学者
選抜制度にするための検討を進める。

なお、見直しを実施する場合には、その対象となる中学生にとって、進路選択等に一定の
準備期間が必要になることに配慮し、できる限り早期に実施時期を示すこととする。

府立高校の在り方ビジョン（概要）

【計画期間：令和4年度から令和13年度までの10年間】

第1部 府立高校を取り巻く現状と課題

①社会の急激な変化

人口減少、グローバル化、超スマート社会の到来、ICT利活用の急速な浸透 等

②公立中学校卒業生数の減少

公立中3生数の一層の減少、高校の小規模化 等

③公立中学校卒業生の進路状況の変化

府内私立高校や通信制高校進学者の増加、府立高校の定員未充足の拡大 等

④生徒の多様化

求められる選択肢の多様化、定時制・通信制課程の役割の変化、特別な支援を要する生徒の増加 等

⑤設置学科の状況

普通科・普通科系専門学科に在籍する生徒の割合の高さ、全国トップの大学進学率、職業学科における地域産業の担い手育成 等

⑥地域創生における府立高校の役割

地域への愛着の醸成、地域を支える人材育成への期待 等

第2部 令和時代に対応した京都府の高校教育の在り方

I 基本的な考え方

◎府立高校の果たすべき役割

公教育の場として教育の機会を保障するとともに、選択肢の多様性を確保することを第一義的に捉え、幅広く多様な生徒を受け入れ、「すべての生徒が夢や希望を持ち、未来に向かっていきいきと学ぶことができる高校」を目指す。

<役割を踏まえた高校教育の展開（主な重点内容）>

- 高校教育の質の確保・向上
- 社会的な自立につながる希望進路の実現
- 府立高校の強みである総合力を活かした高校教育の提供
- 学習指導と部活動や学校行事などの教育活動のバランスの良い高校教育の提供
- 時代の変化と社会のニーズに対応した教育環境のもとでの高校教育の提供
- 地域とともにある府立高校づくり
- 地域産業との連携・地域産業を支える人材の育成

<府内高校教育における公私協調>

◎府立高校の魅力を高めるための視点

- 時代の変化を踏まえた学習内容や学習方法等の充実
- 地域との結びつきやスケールメリット等府立高校の強みを活かした魅力化
- 新しい時代の豊かな学びに応えられる教職員の資質向上や体制の整備、施設設備等の教育環境の充実
- 学科の在り方など各高校の特色をわかりやすく見える化
- 生徒の多様なニーズに対応した学びの環境の保障
- 魅力ある高校づくりを進めるために必要な高校の再編整備や入学者選抜制度、学科の在り方など教育制度等の改革に向けた検討

II 魅力ある府立高校づくり

<1>魅力的な学びの充実

1 スクール・ミッションの再定義

- ・府立高校ならではのスクール・ミッションの再定義
(令和4年度中を目途)

2 新しい時代に応じた探究的な学びや学習スタイルの

構築

- ・探究的な学びや教科等横断的な学び (STEAM 教育) の充実
- ・生徒1人1台端末を導入した新たな学びの充実
- ・ハイブリッド型の新たな学習スタイルの構築 等

3 地域・企業・高等教育機関等との連携強化

- ・高校生と地域の架け橋となるコーディネーターの配置
- ・若手プロフェッショナルの育成
- ・大学等との一貫した授業カリキュラム構築
- ・大学教育の先取り履修による単位認定等の検討
- ・多様な高大連携の充実、府立大学附属化の検討 等

4 スケールメリットや教育活動のバランスの良さを

活かした魅力化の向上

- ・学校の枠を越えた柔軟な教育課程の検討
- ・異なる課程間での単位履修制度の検討
- ・府立高校間での留学制度の検討
- ・学校行事や部活動等の特別活動の活性化 等

5 グローバル人材の育成

- ・外部人材を活用した体験活動や探究的な学びの充実
- ・バーチャルとリアルを併せたハイブリッド留学による世界の学びに触れる機会の拡充
- ・国際バカロレア認定校の導入や教育システムの活用に向けた検討 等

6 教職員の資質能力向上と学校体制等の充実

- ・教職員の研修の充実・人材育成、校内組織の再編・充実
- ・SCやSSW、ICT教育支援員など専門的スタッフの配置
- ・スクールサポートスタッフなど外部人材の活用
- ・校長の同一校在職の長期化など人事異動の在り方検討
- ・働き方改革の推進、優れた教職員の人材確保 等

7 学びを支える教育環境の充実

- ・生徒1人1台端末の導入に伴う購入支援制度の充実
- ・職業学科の設備整備・更新、寮の再整備の推進
- ・府外からの積極的な生徒募集
- ・多様な生徒の学習ニーズに対応した教育環境の充実
- ・教育環境づくりへの生徒の主体的な参画の推進 等

8 発信力の強化

- ・小・中学校教員と高校教員による相互交流、連携の強化
- ・高校生と小・中学生との交流活動の推進
- ・SNSやマスメディア等の積極的な活用
- ・府教育委員会ホームページ等の内容の見直し 等

<2>学科の特色化・魅力化の推進

1 魅力のある新しい普通教育の推進

- ・学科やコースの名称整理、学科の再編等の検討
- ・普通科・普通科系専門学科併設校の学科の在り方検討
- ・中学生や保護者等への効果的な情報発信 等

2 質の高い職業教育と総合学科における学びの充実

- ・高等教育機関等と高校3年間の学びを超えた連携の推進
- ・インターンシップなど企業等との連携強化
- ・職業学科の学科等名称整理、学科再編等の検討
- ・中学生や保護者等への効果的な情報発信 等

<3>多様なニーズに対応した柔軟な教育システムの充実

1 定時制・通信制教育の充実

- ・京都フレックス学園構想に基づく教育システム等の充実
- ・通信制と全日制・定時制課程との併修など柔軟な履修制度の構築
- ・ハイブリッド型の新しい通信制課程の設置検討
- ・特別支援教育の専門性をもつ教員等の配置 等

2 全日制課程の柔軟な教育システムの構築

- ・単位数の見直しや履修条件の弾力化等の検討
- ・生徒の個性や才能を伸ばす柔軟な学習スタイルの検討
- ・普通科と専門学科の併修や学科の異動を可能にする高校づくりの検討 等

3 特別支援教育の充実

- ・特別支援学校高等部と連携した環境整備
- ・高校教育と特別支援教育との複合的な教育システムや特別支援学級の設置検討
- ・通級による指導の充実 等

III 教育制度等の改革

1 地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方の検討

- ・魅力ある高校づくりに向けた高校の再編整備の検討
- ・定時制・通信制課程の再編や再配置の検討
- ・生徒ニーズ等を踏まえた学科再編の検討
- ・全国募集制度や寮などの施設整備の検討 等

2 社会情勢等の変化に対応した入学者選抜の在り方の

検討

- ・現行の入学者選抜制度の成果と課題を検証・整理し、関係機関と連携してよりよい制度となるよう検討

IV 今後の進め方

- 府教育委員会独自で進められる教育内容等の充実・見直しなどは、次年度以降、計画的に進める。
- 教育制度等の改革、関係機関と協議しながら進めていくべきものなどは、必要に応じて会議を立ち上げて検討、あるいは個別の実施計画を策定するなどして進める。

魅力ある府立高校づくり推進基本計画の策定経過

1 魅力ある府立高校づくり懇話会

(1) 設置目的

社会の変化等に対応した高校教育を推進する望ましい府立高校の在り方について、広く意見を求めるために、外部有識者会議を設置。

(2) 委員構成

令和4年11月10日設置 計12名

(委嘱期間 令和4年11月10日～令和5年5月31日)

氏名	役職等
安藤 ゆかり	キャリアコンサルタント
石井 英真	京都大学大学院准教授
梅西 綾子	京都府立高等学校PTA連合会副会長
奥村 久夫	向日市立勝山中学校長
岸田 敏明	京都府立綾部高等学校長
出藏 裕子	京都府PTA協議会理事
中垣 ますみ	京都教育大学教授
原 清治	佛教大学副学長 [座長]
深尾 昌峰	龍谷大学副学長
増田 恒	京都府立桃山高等学校長
松本 明彦	京丹後市教育委員会教育長
吉川 康浩	京都市立桂川中学校長

※敬称略・50音順(役職等は委嘱時点)

(3) 開催状況

回	開催日	主な内容
第1回	令和4年11月10日	■懇話会の設置(座長選出等) ○魅力ある府立高校づくりに向けて
第2回	令和4年11月28日	■主な論点に基づき、各回において意見を聴取 ○多様な生徒のニーズに対応する各課程における役割や望ましい教育環境について
第3回	令和4年12月27日	○全日制課程における学科の役割や望ましい配置について
第4回	令和5年1月24日	
第5回	令和5年2月28日	○地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方について
第6回	令和5年3月20日	○各回における主な意見のまとめ等について

2 府民意見の聴取(パブリック・コメント)

令和5年10月2日から10月27日にかけて、「京都府民意見提出手続(パブリック・コメント制度)」に基づき、府民の皆様から広く御意見を伺いました。

お寄せいただいた127名からの288件の御意見については、その趣旨を踏まえ魅力ある府立高校づくり推進基本計画策定の参考とさせていただき、「意見の要旨」と「意見に対する府の考え方」を公表しました。

府内公立・国立・私立高校の設置学科等一覧

地域	学校名	設置	全 日 制							定時制	通信制	中高一貫	基礎大学等					
			学科種別															
			普通科	普通科系専門	農業	工業	商業	水産	その他 (情報、福祉、体育、音楽、美術、看護、国際関係)					総合学科				
京 都 市 ・ 乙 訓	山城	府	単位制	文庫総合 (単位制)														
	清明	府																
	鴨沂	府	○															
	洛北	府	単位制	サイエンス (単位制)													○	
	北稜	府	○															
	朱雀	府	○															
	洛東	府	○															
	鳥羽	府	単位制	グローバル (単位制)														
	嵯峨野	府	○	京都こすもす														
	北嵯峨	府	○															
	柱	府	○															
	洛西	府	○															
	旗山	府	○		自然科学													
	東稜	府	○															
	洛水	府	○															
	京都すばる	府																
	向陽	府	○															
	乙訓	府	○															
	西乙訓	府	○															
	府立計	19校		17	5	1	0	1	0	2	0	4	1	1	0			
	紫野	市	○		アカデミア													
	堀川	市	○		人間環境 自然探究													
	西京	市			エンタープライジング													○
	美術工芸	市																
	京都堀川音楽	市																
	日吉ヶ丘	市	単位制															
	開建	市	ルミノバージョン															
	京都工学院	市			ポリテック													
	京都奏和	市																
	市立計	9校		4	4	0	1	0	0	2	0	1	0	1	0			
京都教育大学附属	国	○															○ ○	
公立・国立合計	29校		22	9	1	1	1	0	4	0	5	1	3	1				
一燈園	私	○															○	
大谷	私	○															○ ○	
華頂女子	私	○															○	
京都外大西	私	○															○	
京都光華	私	○															○ ○	
京都国際	私	○															○ ○	
京都産業大学附属	私	○															○ ○	
京都女子	私	○		ウイステリア													○ ○	
京都精華学園	私	○															○	
京都成章	私	○															○	
京都聖母学院	私	○															○	
京都先端科学大学附属	私	○															○ ○	
京都橘	私	○															○ ○	
京都西山	私	○															○ ○	
京都文教	私	○															○ ○	

府内公立・国立・私立高校の設置学科等一覧

地域	学校名	設置	全 日 制 学科種別							定時制	通信制	中高一貫	国連 大学 等
			普通科	普通科系専 門	農業	工業	商業	水産	その他 (情報、福祉、体 育、音楽、美術、特 選、国際課程)				
京 都 市	京都美山	私									○		
	京都つくば開成	私									○		
	京都芸術大学附属	私									○	○	
	京都明德	私	○				商業						○
	京都両洋	私	○										
	同志社	私	○									○	○
	同志社女子	私	○									○	○
	ノートルダム女学院	私	○									○	○
	花園	私	○									○	○
	東山	私	○									○	○
	平安女学院	私	○									○	○
	洛星	私	○									○	
	洛南	私	○									○	
	洛陽総合	私							総合学科				
	立命館	私	○									○	○
龍谷大学付属平安	私	○									○	○	
私立計	31校	21	1	0	0	1	0	2	1	0	5	21	21
公私立合計	60校	49	10	1	1	2	0	6	1	5	6	24	22
山 城	東宇治	市	○										
	茨道	市	○										
	城南愛創	府	単位制	経営科学 (単位制)									
	城陽	府	○										
	西城陽	府	○										
	京都八幡	府	総合選択制	人間科学(商)									介護福祉(商)
	久御山	府	○										
	田辺	府	○				工学振興 機械技術 電気技術 自動車						
	木津	府	○		システム園芸			情報技術					
	南陽	府	○	デザインデザイン									○
府立計	10校	10	3	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0
京都芸術	私												
京都炭学館	私	○									○		
京都翔英	私	単位制											
同志社国際	私	○										○	○
立命館宇治	私	○										○	○
私立計	5校	4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2
公私合計	15校	14	3	1	1	1	0	2	0	0	1	3	2
口 丹	北桑田	府	○		京都フォレスト							分校 兼開	
	亀岡	府	単位制	探究文芸 (単位制)									
	南丹	府								総合学科			
	園部	府	○									○	
	農芸	府			農業生産 園芸技術 環境創生								
	須知	府	○		食品科学								
	府立計	6校	4	1	3	0	0	0	0	1	1	0	1
京都聖カタリナ	私	○											
私立計	1校	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
公私合計	7校	5	1	3	0	0	0	1	1	1	0	1	0

府内公立・国立・私立高校の設置学科等一覧

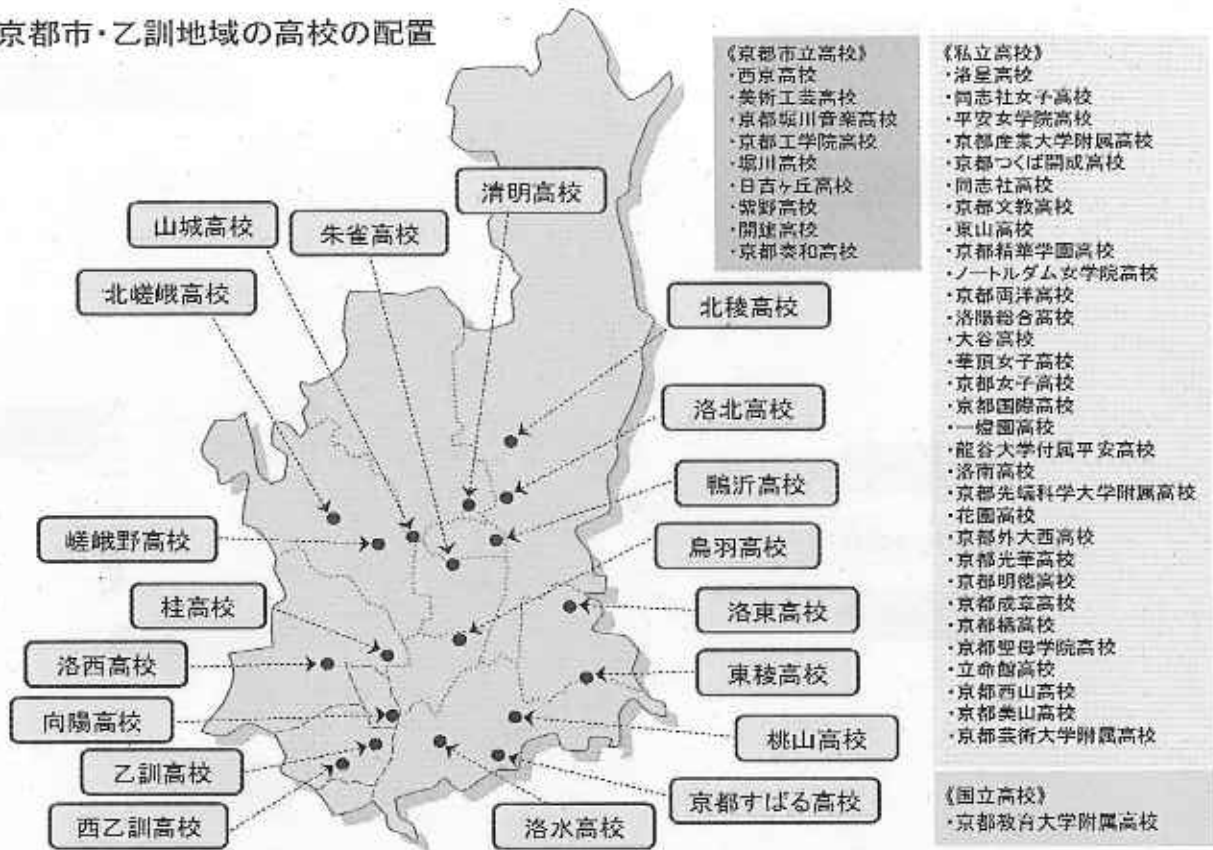
地域	学校名	設置	全 日 制							定時制	通信制	中高 一貫	国大等 大学	
			学科種別											
			普通科	普通科系専 門	農業	工業	商業	水産	その他 (情報、保健、体 育、音楽、美術、舞 踊、国際関係)					総合学科
中 丹	綾部	府	○		農業(専) 園芸(専) 農業化学(専)						分校 通信			
	福知山	府	○	文部科学							分校 通信	○		
	工采	府				機械テクノロジー ロボット技術 電気テクノロジー 環境テクノロジー								
	大江	府							地域創生					
	東舞鶴	府	○							分校 通信				
	西舞鶴	府	○	理数探究							○			
	府立計	6校	4	2	1	1	0	0	0	1	3	1	1	0
	京都共栄学園	私	○									○	○	
	福知山淑徳	私								総合学科				
	福知山成美	私	○				商業							
日星	私	○						看護						
私立計	4校	3	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	
公私合計	10校	7	2	1	1	1	0	1	2	3	2	2	0	
丹 後	宮津天橋(宮津)	府	単位制			建築 (単位制)								
	宮津天橋(加悦谷)	府	単位制											
	海洋	府						海洋科学 海洋工学 海洋資源						
	峰山	府	○			機械創生								
	丹後緑風(網野)	府	単位制					企業経営 (単位制)						
	丹後緑風(久美浜)	府		み5L99L件 (単位制)	7999L12A (単位制)									
	清新	府								通信				
	府立計	7校	4	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0
京都暁星	私	○												
私立計	1校	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
公私合計	8校	5	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0		
総 計	公立合計	57校	43	16	7	5	3	1	5	2	10	2	5	0
	国立合計	1校	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	私立合計	42校	36	1	0	0	2	0	5	2	0	7	24	23
	国公私総計	100校	80	17	7	5	5	1	10	4	10	9	30	24

※令和5年度入学者選抜実施校を掲載

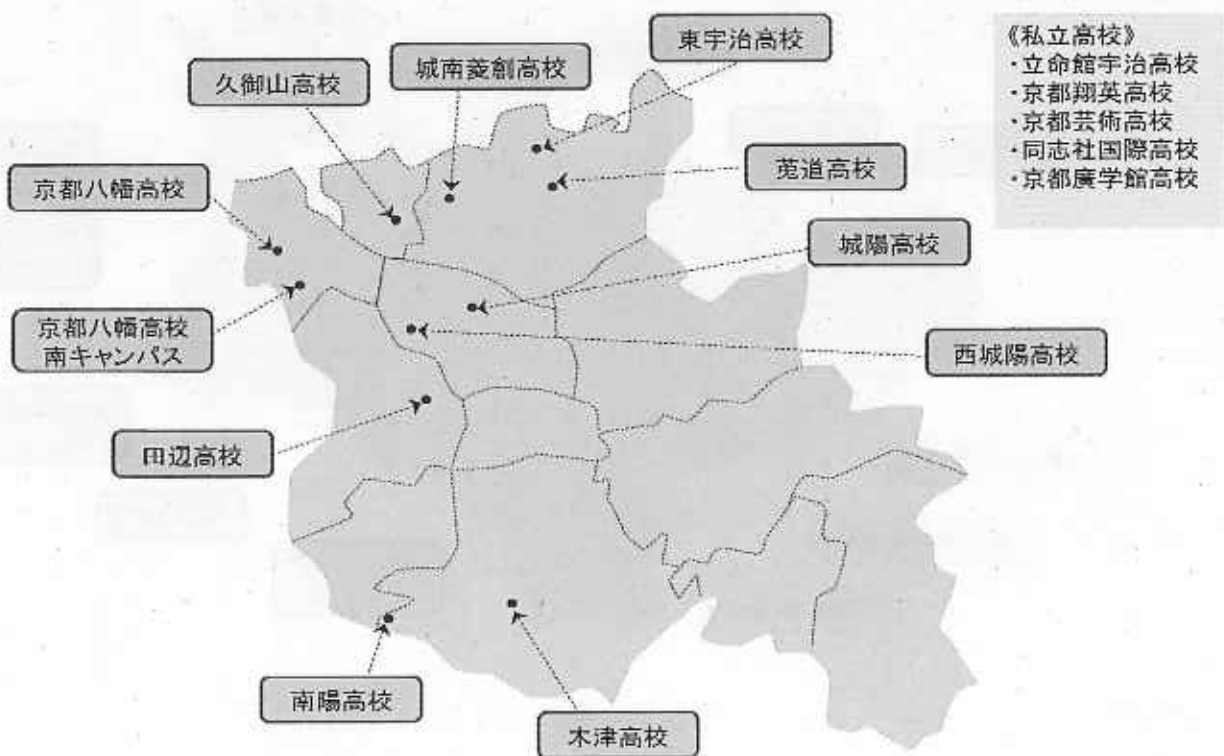
※令和5年度京都府公立高等学校募集定員一覧、令和5年度京都府私立高等学校生徒募集一覧等を基に高校改革推進室まとめ

府内高校の所在地図

京都市・乙訓地域の高校の配置

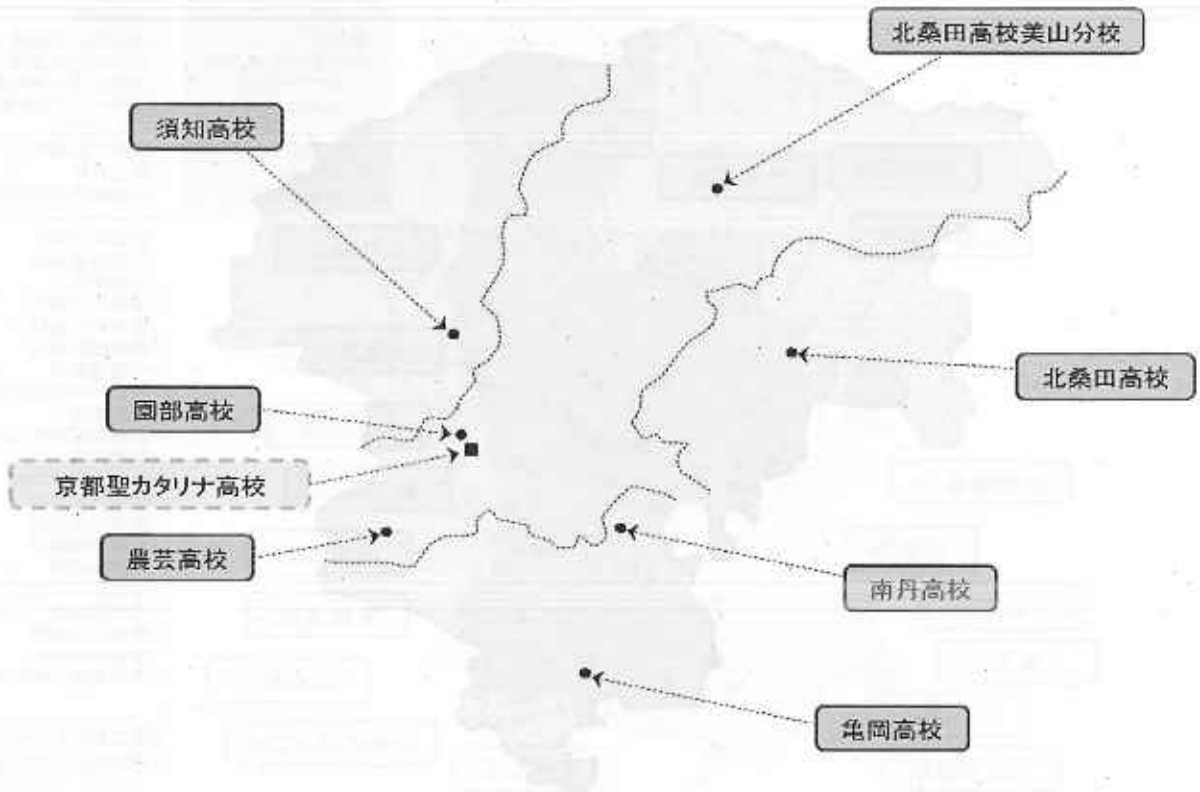


山城地域の高校の配置

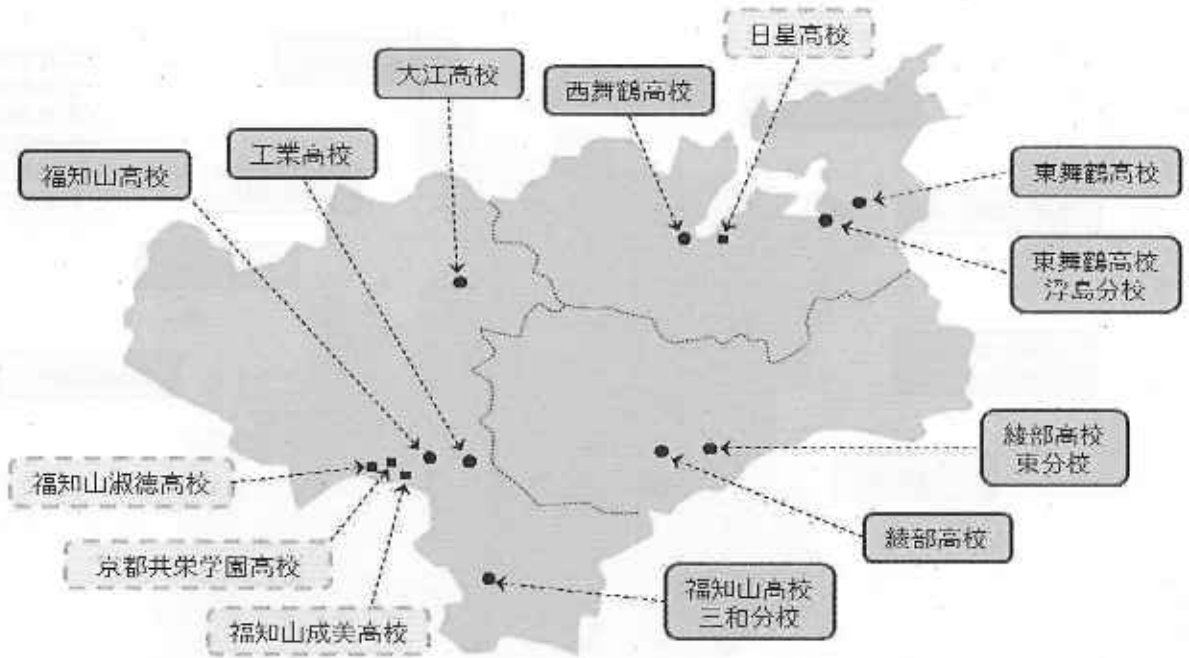


府内高校の所在地図

口丹地域の高校の配置

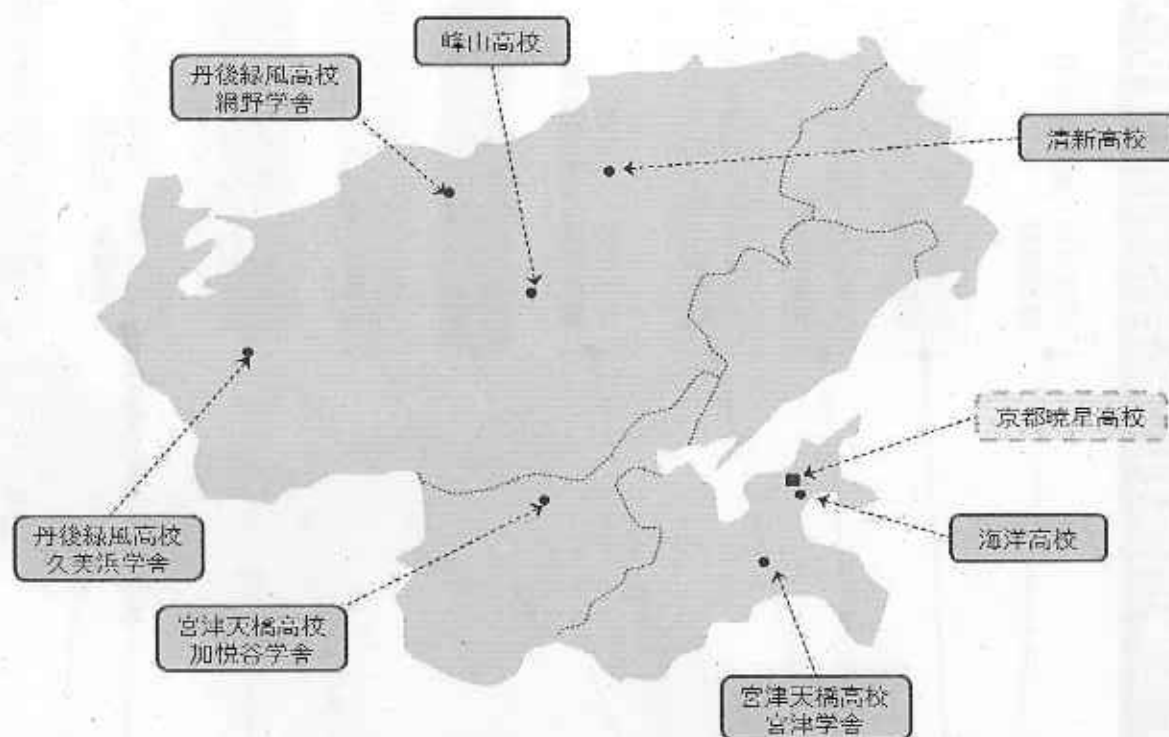


中丹地域の高校の配置



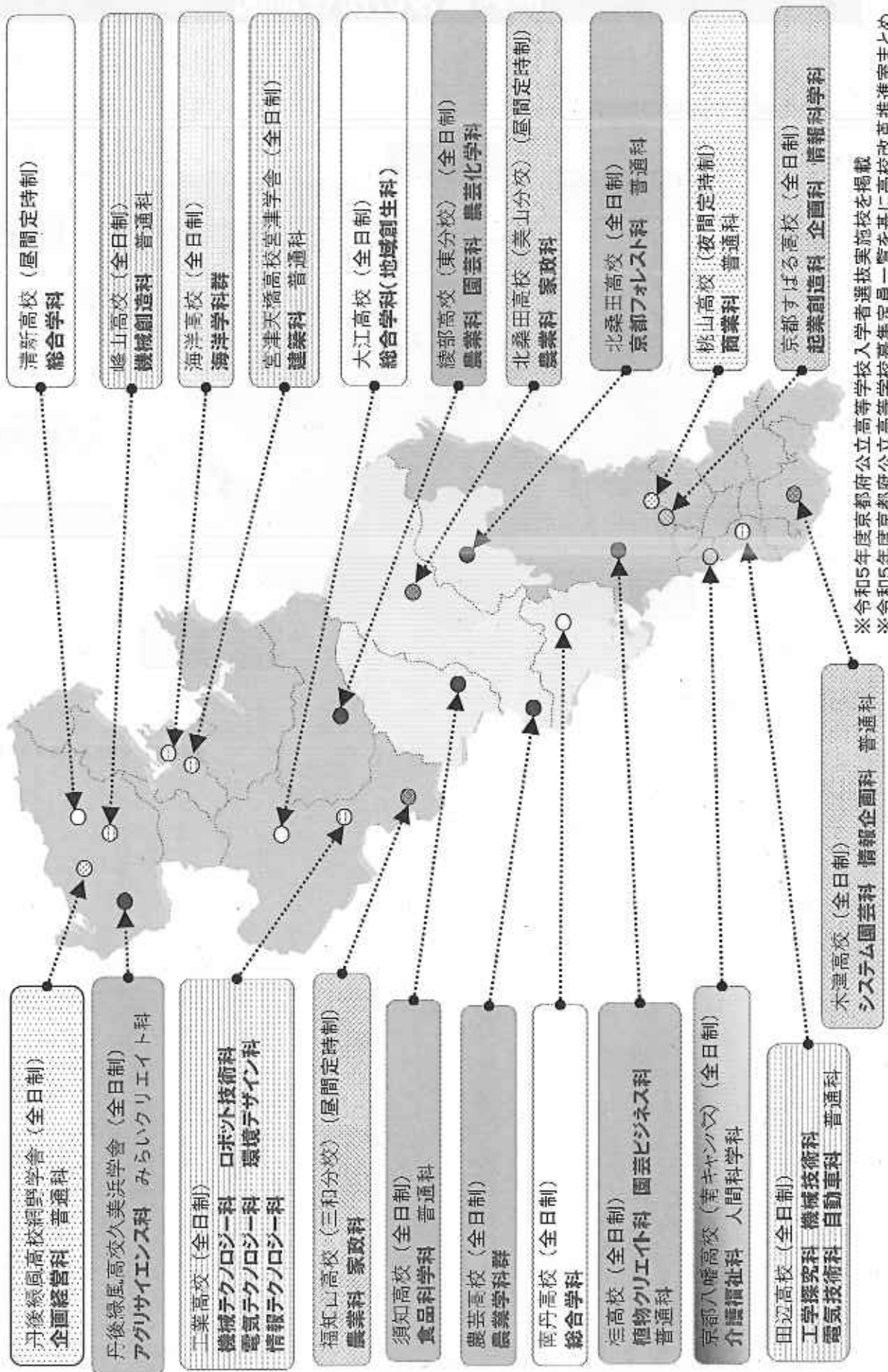
府内高校の所在地図

丹後地域の高校の配置



※各校の所在地を基に高校改革推進室まとめ

府立高校における職業教育を主とする専門学科・総合学科設置状況等

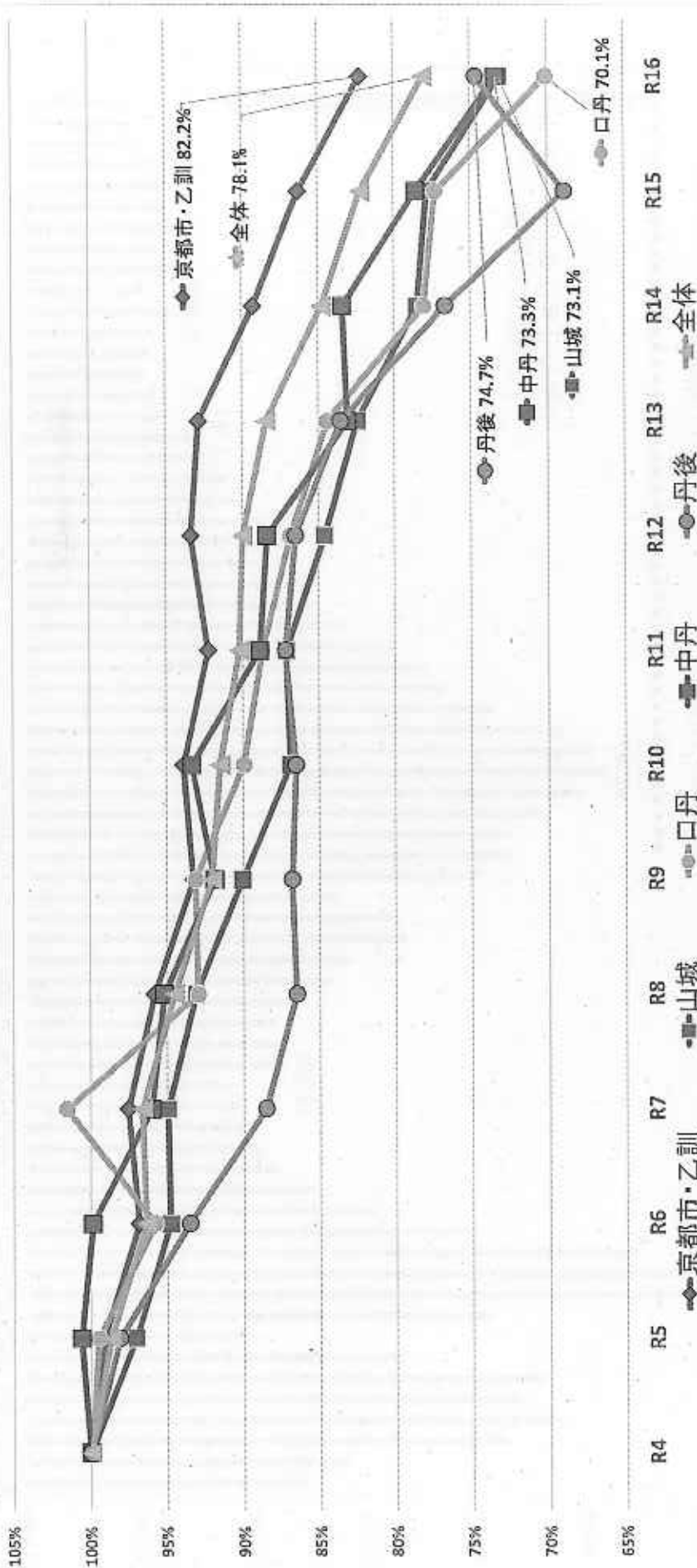


※令和5年度京都府公立高等学校入学者選抜実施校を掲載
 ※令和5年度京都府公立高等学校募集定員一覧を基に高校改革推進室まとめ

府内公立中学校3年生の増減率の将来推計（令和4年度基準）

令和4年度時点(暫定値)による推計

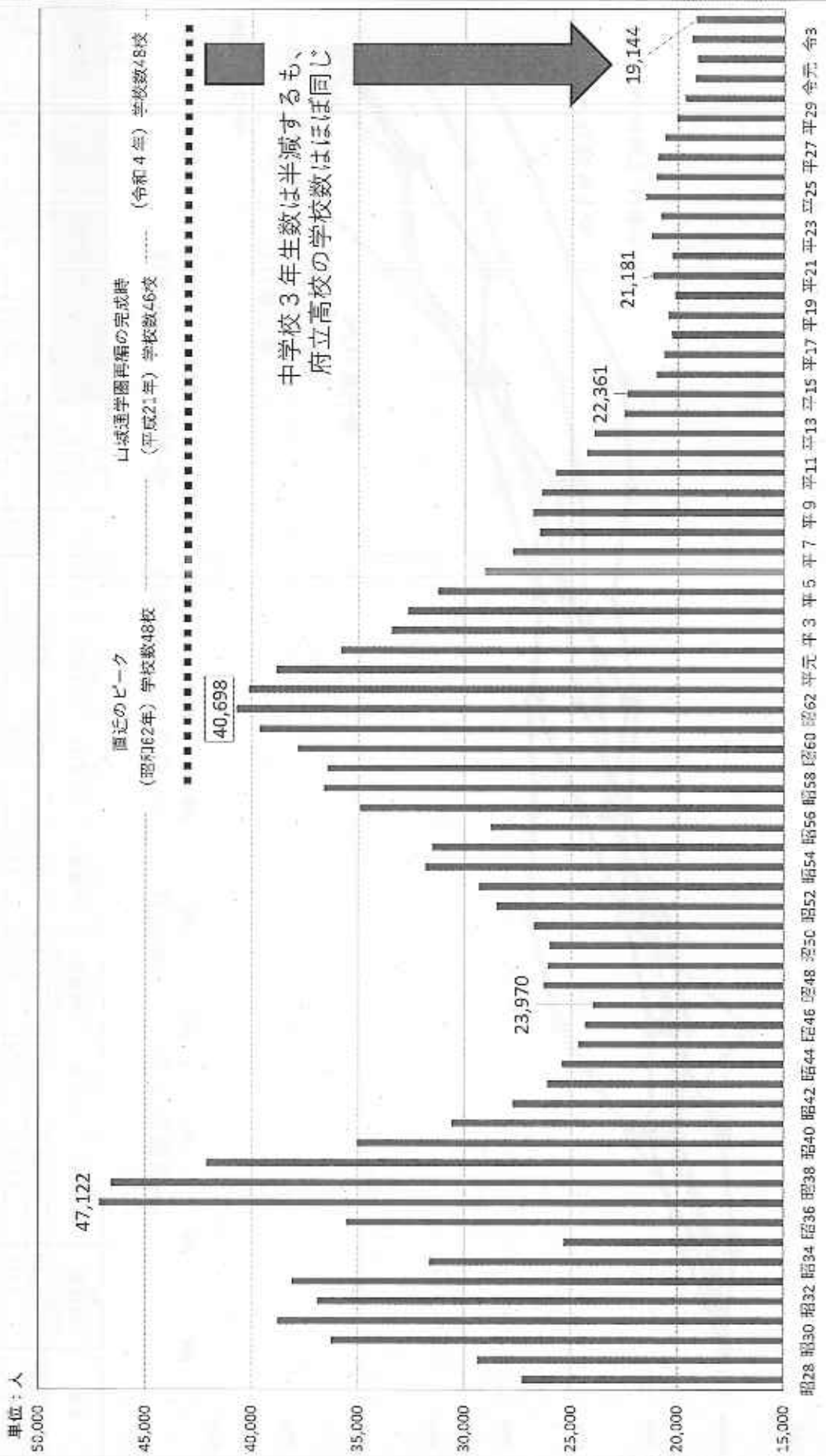
※令和4年度=令和4年5月1日「学校基本調査」(暫定値)によるデータ
 ※令和5～12年度=令和4年5月1日「学校基本調査」(暫定値)による推計データ [過去3年間の学年進行率を元に推計]
 ※令和13～16年度=各年出生数(暦年)からの推計データ [各年出生数×現小1～6年生の(中3生時推計数/出生数)の平均率]



年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	(R5選抜) <R4中3生>	(R6選抜)	(R7選抜)	(R8選抜) <R4小6生>	(R9選抜)	(R10選抜)	(R11選抜)	(R12選抜)	(R13選抜) <R4小1生>	(R14選抜)	(R15選抜)	(R16選抜)	(R17選抜)
京都市・乙訓	10,640	10,549	10,301	10,376	10,193	9,922	9,899	9,813	9,935	9,878	9,499	9,182	8,751
山城	4,979	4,832	4,720	4,727	4,635	4,484	4,325	4,339	4,212	4,105	3,908	3,876	3,640
口丹	1,163	1,157	1,114	1,181	1,081	1,083	1,046	1,032	1,010	982	908	899	815
中丹	1,920	1,630	1,618	1,555	1,542	1,488	1,512	1,440	1,432	1,346	1,351	1,273	1,188
丹後	742	728	694	657	642	644	642	647	642	620	569	511	554
全体	19,144	18,896	18,447	18,496	18,093	17,621	17,514	17,271	17,231	16,931	16,235	15,741	14,948

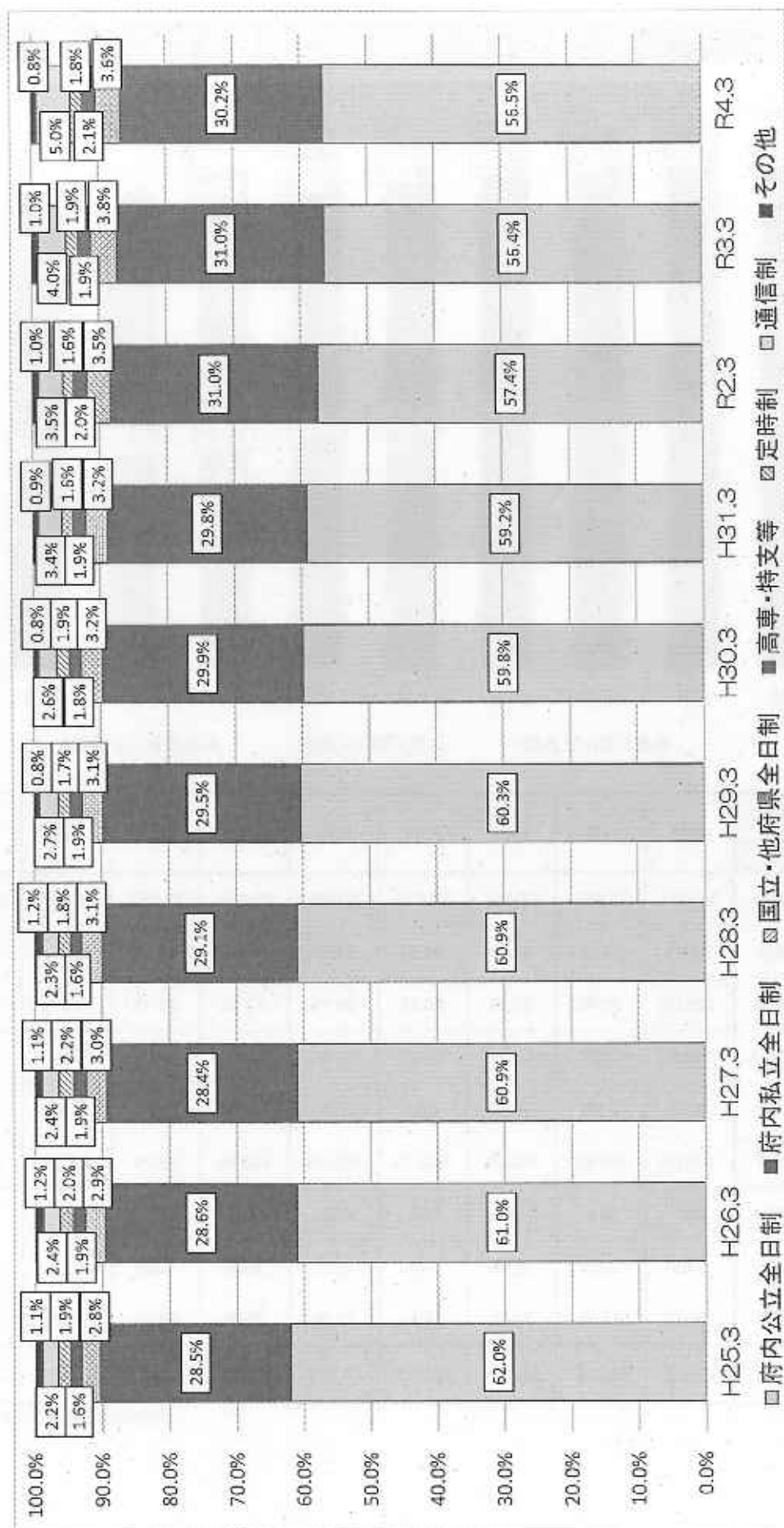
※旧京北町については、「口丹」に含む。
 ※学校基本調査、京都府保健福祉統計を基に高校改革推進室まとめ

府内公立中学校3年生数の推移（昭和28年～令和4年）



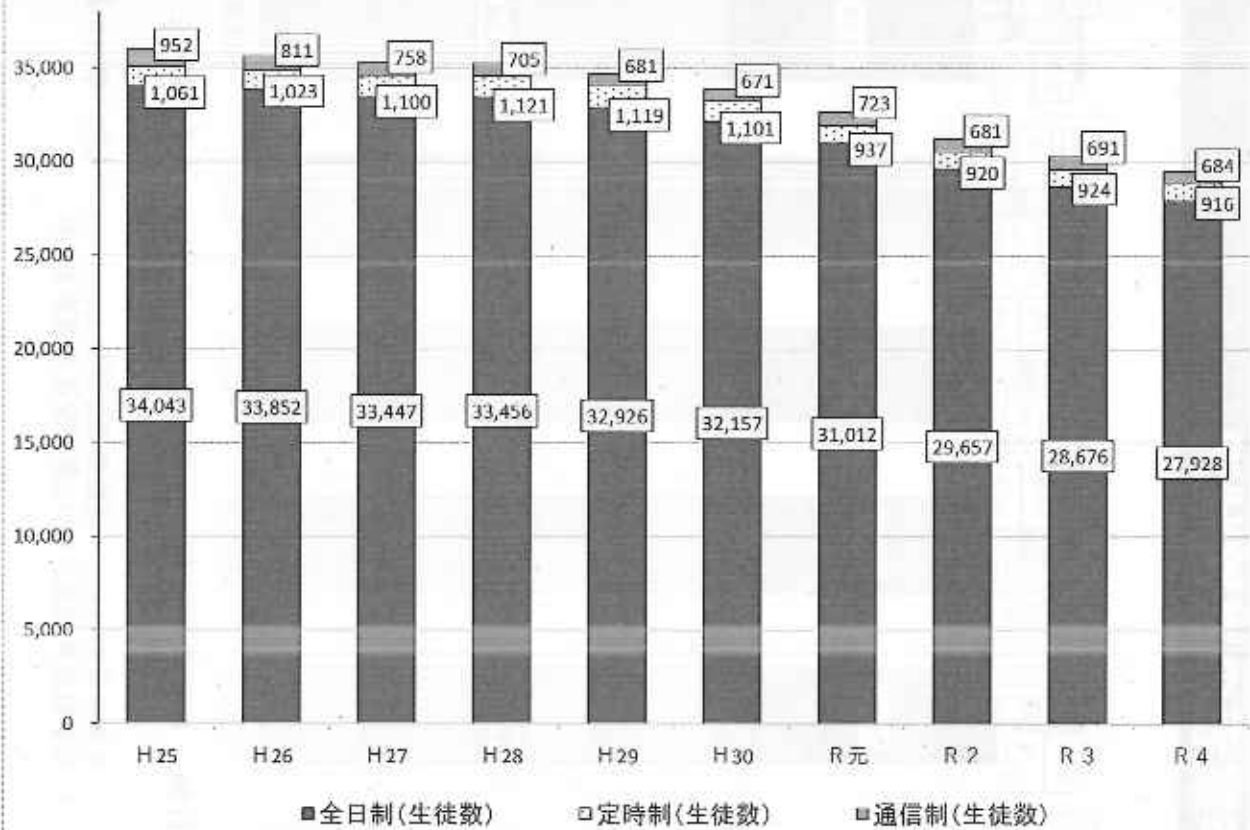
※学校基本調査を基に高校改革推進室まとめ

府内公立中学校卒業者の進路状況



※各年度の合計は、端数処理の関係上、100%にならない場合がある。
 ※学校基本調査をもとに高校改革推進室まとめ

府立高校における課程別生徒数の状況

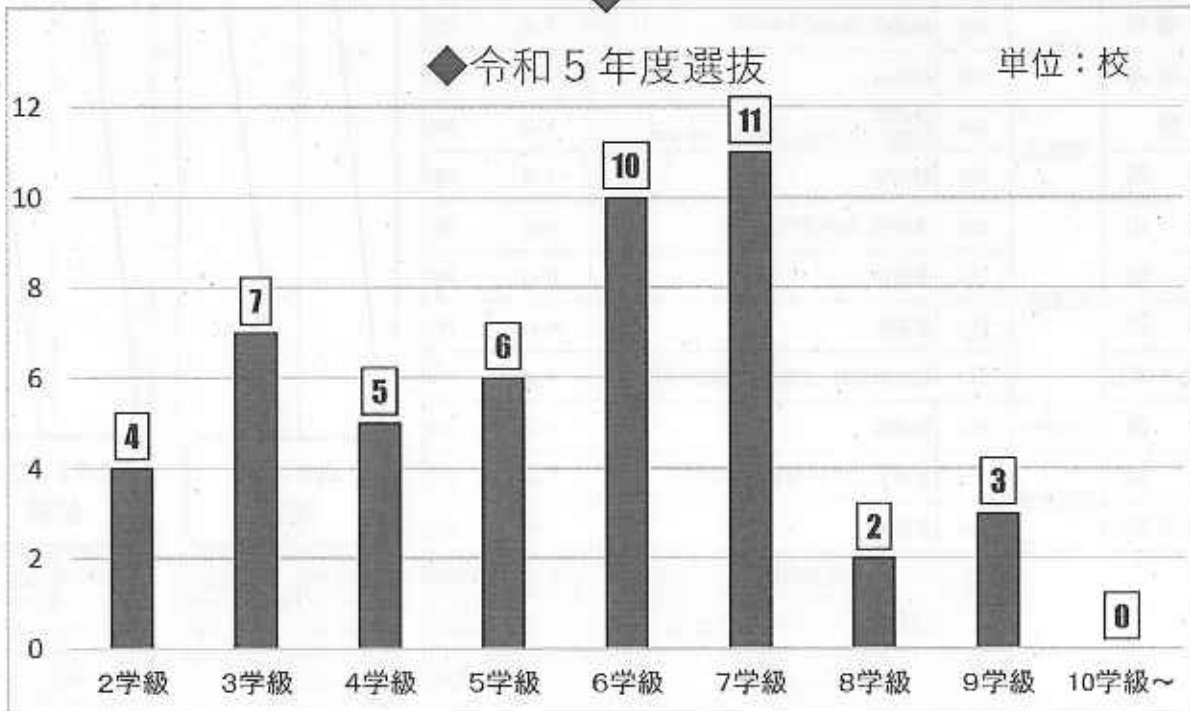
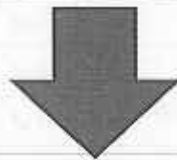
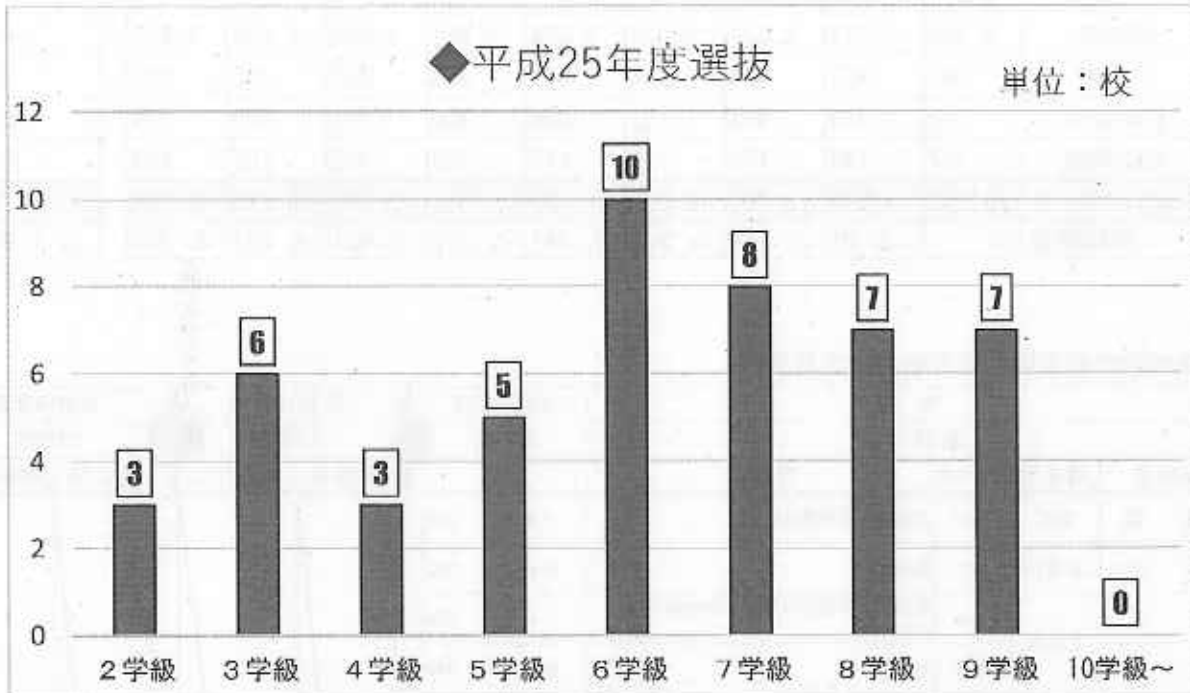


生徒数と全体比及び増減率(H25基準)		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
全日制課程	生徒数(人)	34,043	33,852	33,447	33,456	32,926	32,157	31,012	29,657	28,676	27,928
	全体比	94.4%	94.9%	94.7%	94.8%	94.8%	94.8%	94.9%	94.9%	94.7%	94.6%
	増減率	100.0%	99.4%	98.2%	98.3%	96.7%	94.5%	91.1%	87.1%	84.2%	82.0%
定時制課程	生徒数(人)	1,061	1,023	1,100	1,121	1,119	1,101	937	920	924	916
	全体比	2.9%	2.9%	3.1%	3.2%	3.2%	3.2%	2.9%	2.9%	3.1%	3.1%
	増減率	100.0%	96.4%	103.7%	105.7%	105.5%	103.8%	88.3%	86.7%	87.1%	86.3%
通信制課程	生徒数(人)	952	811	758	705	681	671	723	681	691	684
	全体比	2.6%	2.3%	2.1%	2.0%	2.0%	2.0%	2.2%	2.2%	2.3%	2.3%
	増減率	100.0%	85.2%	79.6%	74.1%	71.5%	70.5%	75.9%	71.5%	72.6%	71.8%
生徒数全体(人)		36,056	35,686	35,305	35,282	34,726	33,929	32,672	31,258	30,291	29,528

※学校基本調査を基に高校改革推進案まとめ

府立高校の第1学年学級数（学校規模）の状況

○府立高校(全日制)における第1学年の募集定員による学級数別学校数の変化



※全日制の分校も1校としてカウント

※京都府公立高等学校募集定員一覧等を基に高校改革推進室まとめ

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（京都市・乙訓地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)
選抜年度	5年度 中3	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度 小1	17年度
京都市	9,284	9,219	9,013	9,039	8,889	8,667	8,645	8,482	8,579	7,401
向日市	507	457	464	504	461	433	480	490	490	547
長岡京市	712	729	694	707	696	700	731	686	729	623
大山崎町	137	144	130	126	147	122	133	155	137	180
京都市・乙訓計	10,640	10,549	10,301	10,376	10,193	9,922	9,989	9,813	9,935	8,751
(対R5選抜比)		△ 91	△ 339	△ 264	△ 447	△ 718	△ 651	△ 827	△ 705	△ 1,889

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度	令和12年度		令和16年度	
選抜年度				5年度	13年度		17年度	
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比
山城	北区	S23	普通科、文理総合科	9 cl 360	△8~9cl 規模	△21~22cl 規模	3,870	△ 850
鴨沂	上京区	S23	普通科	6 cl 240				
洛北	左京区	S25	普通科、普通科スポーツ総合専攻 中高一貫	7 cl 280				
北稜		S55	普通科	6 cl 240				
朱雀	中京区	S23	普通科	5 cl 200				
洛東	山科区	S29	普通科	6 cl 240				
烏羽	南区	S59	普通科、普通科スポーツ総合専攻 グローバル科	7 cl 280				
嵯峨野	右京区	S25	普通科、京都こすもす科	8 cl 320				
北嵯峨		S50	普通科	7 cl 280				
柱	西京区	S23	普通科 植物クリエイト科、園芸ビジネス科	9 cl 360				
洛西		S55	普通科	7 cl 280				
桃山	伏見区	S23	普通科、自然科学科	9 cl 360				
東稜		S52	普通科	6 cl 240				
洛水		S53	普通科	4 cl 160				
京都すばる		S60	起業創造科、企画科、情報科学科	7 cl 280				
向陽	向日市	S50	普通科	5 cl 200				
乙訓	長岡京市	S39	普通科、スポーツ健康科学科	6 cl 240				
西乙訓		S59	普通科	4 cl 160				
定員等計(a)				118 cl 4,720	4,390	△ 330	3,870	△ 850
当該地域の公立中3生数(b)				10,640	9,935	△ 705	8,751	△ 1,889
割合(a/b)				44.4%	44.2%		44.2%	

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（山城地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)
選抜年度	5年度 中3	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度 小1	令和16年 17年度
宇治市	1,605	1,526	1,478	1,448	1,423	1,360	1,307	1,315	1,258	956
城陽市	569	609	595	606	563	560	538	536	543	453
八幡市	566	509	565	524	521	463	439	477	405	335
京田辺市	704	665	651	673	708	663	660	662	649	639
久御山町	149	131	128	122	110	93	102	99	107	89
井手町	54	40	46	47	37	50	42	35	32	31
宇治田原町	66	63	67	73	72	57	71	60	51	42
木津川市	887	930	806	859	862	893	827	832	829	828
精華町	342	332	346	340	299	316	311	299	313	237
和束町	18	12	25	17	22	16	15	15	14	13
笠置町・南山城村	19	15	13	18	18	13	13	9	11	17
山城計	4,979	4,832	4,720	4,727	4,635	4,484	4,325	4,339	4,212	3,640
(対R5選抜比)		△ 147	△ 259	△ 252	△ 344	△ 495	△ 654	△ 640	△ 767	△ 1,339

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度		令和12年度		令和16年度				
選抜年度				5年度		13年度		17年度				
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比				
東宇治	宇治市	S49	普通科	7 cl 280	△9~10cl 規模	△390	1,920	△710				
菟道		S60	普通科	7 cl 280								
城南菱創		H21	普通科、教養科学科	6 cl 240								
城陽	城陽市	S47	普通科	7 cl 280								
西城陽		S58	普通科、普通科スポーツ総合専攻	7 cl 280								
京都八幡	八幡市	H19	普通科	4 cl 160								
京都八幡(南)		H19	人間科学科、介護福祉科	2 cl 60								
久御山	久御山町	S55	普通科、普通科スポーツ総合専攻	6 cl 240								
田辺	京田辺市	S38	普通科、工学探究科、機械技術科 電気技術科、自動車科	8 cl 290								
木津	木津川市	S23	普通科 システム園芸科、情報企画科	6 cl 240								
南陽		S61	普通科、サイエンスリサーチ科 中高一貫	7 cl 280								
定員等計(a)				67 cl 2,630					2,240	△ 390	1,920	△ 710
当該地域の公立中3生数(b)				4,979					4,212	△ 767	3,640	△ 1,339
割合(a/b)				52.8%	53.2%		52.7%					

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（口丹地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)	
選抜年度	5年度 中3	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度 小1	令和16年 17年度	
京都市右京区 (旧京北町)	37	32	27	31	21	23	19	17	23	12	
亀岡市	763	785	741	792	706	732	694	715	673	561	
南丹市	281	259	264	284	291	261	261	237	253	203	
京丹波町	82	81	82	74	63	67	72	63	61	39	
口丹計	1,163	1,157	1,114	1,181	1,081	1,083	1,046	1,032	1,010	815	
(対R5選抜比)		△ 6	△ 49	18	△ 82	△ 80	△ 117	△ 131	△ 153	△ 348	

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度	令和12年度		令和16年度	
選抜年度				5年度	13年度		17年度	
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比
北桑田	右京区	S23	普通科、京都フォレスト科	3 cl 90	△2~3cl 規模	△110	620	△260
亀岡	亀岡市	S23	普通科、普通科美術・工芸専攻 探究文理科	7 cl 270				
南丹		S54	総合学科	5 cl 170				
園部	南丹市	S23	普通科、中高一貫	4 cl 160				
農芸		S58	農業生産科、園芸技術科 環境創造科	3 cl 100				
須知	京丹波町	S23	普通科、食品科学科	3 cl 90				
定員等計(a)				25 cl 880	770	△ 110	620	△ 260
当該地域の公立中3生数(b)				1,163	1,010	△ 153	815	△ 348
割合(a/b)				75.7%	76.2%		76.1%	

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（中丹地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)
選抜年度	5年度 中3	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度 小1	令和16年 17年度
綾部市	257	249	249	260	215	240	202	206	200	153
福知山市	696	692	678	673	681	629	682	657	627	570
舞鶴市	667	689	691	622	646	619	628	577	605	465
中丹計	1,620	1,630	1,618	1,555	1,542	1,488	1,512	1,440	1,432	1,188
(対R5選抜比)		10	△ 2	△ 65	△ 78	△ 132	△ 108	△ 180	△ 188	△ 432

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度	令和12年度		令和16年度					
選抜年度				5年度	13年度		17年度					
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比				
綾部	綾部市	S23	普通科、普通科スポーツ総合専攻	6 cl 220	△3~4cl 規模		810	△ 300				
綾部(東)		S23	農業科、園芸科、農芸化学科	2 cl 60								
福知山	福知山市	S23	普通科、文理科学科、中高一貫	6 cl 240								
工業		S38	機械テクノロジー科、ロボット技術科 電気テクノロジー科、環境デザイン科 情報テクノロジー科	5 cl 180								
大江		S23	地域創生科	3 cl 90								
東舞鶴	舞鶴市	S23	普通科	3 cl 120					△7~8cl 規模		1,188	△ 432
西舞鶴		S23	普通科、理数探究科	5 cl 200								
定員等計(a)				30 cl 1,110	980	△ 130	810	△ 300				
当該地域の公立中3生数(b)				1,620	1,432	△ 188	1,188	△ 432				
割合(a/b)				68.5%	68.4%		68.2%					

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（丹後地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)
選抜年度	5年度 中3	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度 小1	令和16年 17年度
宮津市	130	118	112	125	112	113	101	104	100	72
伊根町	11	9	10	18	9	12	20	12	15	20
与謝野町	165	160	163	150	141	129	143	142	131	109
京丹後市	436	441	409	364	380	390	378	389	396	353
丹後 計	742	728	694	657	642	644	642	647	642	554
(対R5選抜比)		△ 14	△ 48	△ 85	△ 100	△ 98	△ 100	△ 95	△ 100	△ 188

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度	令和12年度		令和16年度	
選抜年度				5年度	13年度		17年度	
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比
宮津天橋 (宮津)	宮津市	R2	普通科、建築科	4 cl 150	△2~3cl 規模	△ 85	490	△ 165
宮津天橋 (加悦谷)	与謝野町	R2	普通科	2 cl 80				
海 洋	宮津市	S23	海洋科学科、海洋工学科、海洋資源科	3 cl 95				
峰 山	京丹後市	S23	普通科、機械創造科	5 cl 190				
丹後緑風 (網野)		R2	普通科、企画経営科	3 cl 90				
丹後緑風 (久美浜)		R2	アグリサイエンス科 みらいクリエイト科	2 cl 50				
定員等計(a)				19 cl 655	570	△ 85	490	△ 165
当該地域の公立中3生数(b)				742	642	△ 100	554	△ 188
割合(a/b)				88.3%	88.8%		88.4%	

※学校基本調査、京都府保健福祉統計、京都府公立高等学校募集定員一覧等を基に高校改革推進室まとめ